



斎藤 ひろ子 Saito Hiroko  
さんぶ木楽会 会長

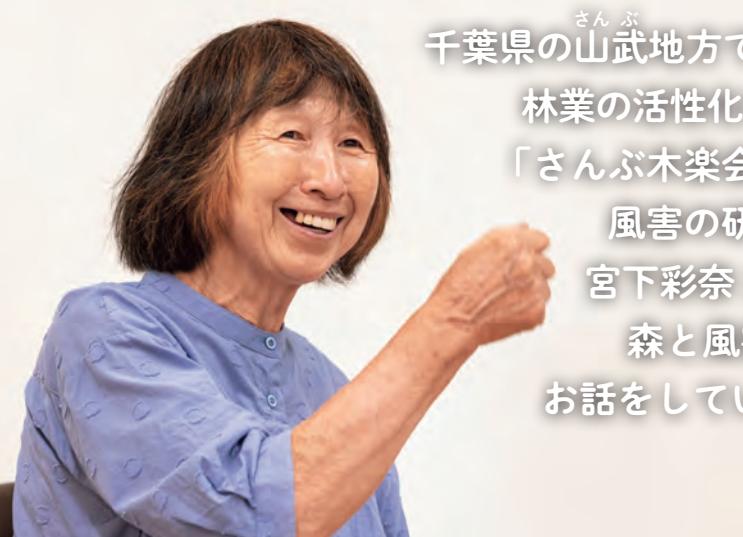


手島 芳枝 Tejima Yoshie  
りんか  
林家・さんぶ木楽会 前会長

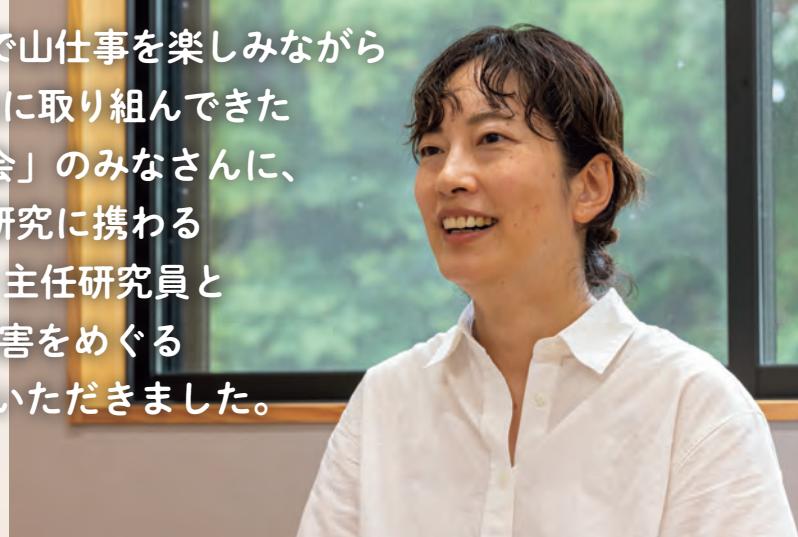
# 「風の道」ができない 森づくりをめざして

卷頭●座談

千葉県の山武地方で山仕事を楽しみながら  
林業の活性化に取り組んできた  
「さんぶ木楽会」のみなさんに、  
風害の研究に携わる  
宮下彩奈 主任研究員と  
森と風害をめぐる  
お話をしていただきました。



山沢 敏江 Yamasawa Toshie  
林家・さんぶ木楽会 会員



宮下 彩奈 Miyashita Ayana  
森林災害・被害研究拠点

千葉県森林組合北総事業所(同県東金市)にて Photo by Godo Keiko

宮下●手島さんは「さんぶ木楽会\*」の初代会長をされていましたが、会はどういう経緯で誕生したのでしょうか？

手島●サンブスギ\*は江戸時代から栄えた銘木ですが、林業の不振や病害にやられたこと、もあって手がまわらなくなり、荒れる森も出てきたんです。そんな中、千葉県の山武農林振興センターから提案があって、林業に女性の力をと2006年に立ち上げたのが「さんぶ木楽会(以下、木楽会)」です。山武地区は平地林が多くて女性でも作業がしやすいんです。

宮下●現会長の斎藤さんも会の立ち上げメンバーのおひとりですね。

斎藤●はい。森林組合に30年ほど勤め、山主さんたちとの仕事を宝物として60歳で退職しました。在職中に、県から女性だけの林業の集まりを考えているのでと声をかけていただき、私は山林は持つていませんが、今までの経験を活かしてみたいと立ち上げに参加しました。会は7人でスタートしたのですが、当初はだれも顔見知りじやなかつたんです。それが、これから山武の林業をどう守つていこうか、という強い想いを持つた方たちばかりで、いまでは姉妹のようす仲良くなりました。

宮下●山沢さんは、どのような経緯で会に参加されたのですか？

山沢●私は結婚を機にこの地に移り住みました。主人が山が大好きだったので、勤めの休日のたびに一緒に山へ行つて、木を植えたり枝打ちをしたりして森を育ててきました。退職を機会にもうちょっと山のことについて知りたいと思つて木楽会に入りました。

山沢●私は山が大好きだったので、勤めの休日のたびに一緒に山へ行つて、木を植えたり枝打ちをしたりして森を育ててきました。主人が山が大好きだったので、勤めの休日のたびに一緒に山へ行つて、木を植えたり枝打ちをしたりして森を育ててきました。退職を機会にもうちょっと山のことについて知りたいと思つて木楽会に入りました。



手島 芳枝 (てじま よしえ)

1944年千葉県山武郡横芝町(現横芝光町)生まれ。1964年に東京家政学院短期大学卒業。1966年に同郡芝山町で江戸時代から続く林家の手島家に嫁ぐ。夫婦そろって大径材生産を目標として長伐期施業を行ってきた。後継者の育成にも熱心で、2006年のさんぶ木楽会設立時に初代会長に就任し、2016年からは相談役として、今でも会の活動に知恵と材木、木の実等の山の恵みを提供しており、会の要。昔ながらの木造住宅に暮らしながら、山武林業を学べる場を提供している。



斎藤 ひろ子 (さいとう ひろこ)

1949年山梨県中巨摩郡(現南アルプス市)生まれ。1972年に近畿大学農芸女子短期大学家政学科卒業。1974年に結婚を機に千葉県へ移り住む。1979年に家の近くの源森林組合(現千葉県森林組合北総事業所)に勤務し始める。2009年に定年退職を迎えるが、その後も臨時職員として現在も活躍中。2006年のさんぶ木楽会の設立当初からのメンバーで副会長として会長の補佐をし、2016年からは会長に就任し現在に至る。

巻頭●座談

大きな気持ちを持って取り組まないと  
林業はやり続けることができません。

手島 ● 大きな気持ちを持って取り組まないと  
林業はやり続けることができません。

宮下 ● 大きな気持ちを持って取り組まないと  
林業はやり続けることができません。



2019年の台風15号による  
風害での倒木(左)と、その後  
タケの侵入を受けた林地。

Key Words  
非赤枯性溝腐病

幹に縦長の溝状の腐朽を生じ、材質の劣化や成長阻害を引き起こす。木材腐朽菌のチャアナタケモドキが病原菌で、1960年代に茨城県南部で初めて確認され、サンブスギに多発した。

Key Words  
サンブスギ

山武地域で挿し木(クローン)苗で植林されてきたスギの在来品種。まつすぐに伸びる幹と年輪の詰まった優良な材質を持つ。大都市・江戸の建築用材や船材の需要を満たす木材として重宝され、林業地として栄えた。



Key Words  
さんぶ木楽会

千葉県山武地区で2006年に山武農林振興センターの呼びかけに応じた林業に関わる女性たち7人で立ち上げた会。管理の行き届かない森林での植林、枝払い、下刈り、間伐などの山仕事を請け負っている。楽しみながら木を楽しもうと名づけられた。サンブスギを使った箸やコースターなど(左写真)のクラフト制作も行っている。

巻頭●座談

道路ぎわの木も折れて道路をふさいでしまい、  
電線も切れて大災害となりました。

宮下 ● 山武地区の林業は、2019年の台風で大きな被害を受けたと聞きましたが。

斎藤 ● 千葉県はふしぎと台風がよけて通るところ多かったのですが、19年の台風15号のときは直撃を受けました。それでたくさんの木が風で倒されてしまいました。道路ぎわの木も折れて道路をふさいでしまい、電線も切れ大災害となりました。サンブスギは非赤枯性溝腐病\*に罹りやすく、幹が侵されて腐る風害に弱いんです。台風のあと再造林も続けてますが、そんな経緯もありサンブスギを育てる方は、いまではほとんどいません。

手島 ● うちは先祖代々の山林が約30ヘクタールほどあって、無節の柱をとろうと長いこと林業に力を入れてやってきました。でも、いまや無節の柱が育つても使ってくれる人がいません。そこへ19年の台風で、見事に森がやられました。木が折れると草が入つてつるが絡まり荒れるので、性懲りもなくまたそこに植林をしました。林業は不振ですが、夫は環境のためといってがんばっています。それくらい大きな気持ちを持って取り組まないと林業はやり続けることができません。

宮下 ● 昔から女性も家の山仕事を手伝うことが普通のことだったのですか?

山沢 ● そうですね。山へ行く時には一人で行つちやダメで、必ず2人で行きなさいって言われていて、さらに台風で木が倒れてしまいタケがはびこつてしましました。

宮下 ● 山の手入れはなかなか大変ですね。ところで、森の中で風の吹きやすい方向、被害の出やすい場所とかはあるのでしょうか?

斎藤 ● 樹齢80年ぐらいの木が何本か風に倒されができず、さらに台風で木が倒れてしまいタケがはびこつてしましました。

宮下 ● 山の手入れはなかなか大変ですね。ところで、森の中で風の吹きやすい方向、被害の出やすい場所とかはあるのでしょうか?

斎藤 ● 樹齢80年ぐらいの木が何本か風に倒されたので伐つたことがあります。そしたらその後の台風でそこがちょうど風道になってしまって、道路の反対側にある住宅の屋根がみんな飛ばされました。隣の八街市は風が強く、煙の周りをヒノキやサワラで2列箱、障子の桟、棺桶などに使ってました。でも芯に穴があきやすいため、風に強くはないと思いません。葉っぱが茂っているので、砂ぼこりを避けるにはいいのでしょうか。

手島 ● ヒノキも結構葉っぱが茂るね。

宮下 ● 山では、防風林を造つて植林するようなことはしないのですか?

手島 ● うちには隣との境にカシを植えてます。

斎藤 ● ちがう樹種を植えると、境界がわからなくなることがありますが、山の境界がわからなくなることで

手島 ● そうですね。山のタケをきれいに伐つて、そのあとにスギを植えるのですが、タケノコを取りたいと少し残した竹林もあって。手入れのできていない森ばかりが目立ちます。

宮下 ● 先ほどみせていただいた森では、タケの侵入がすごかつたのが気になりましたが、タケとの戦いは昔からですか?

手島 ● そうですね。山のタケをきれいに伐つて、そのあとにスギを植えるのですが、タケノコを取りたいと少し残した竹林もあって。手入れのできていない森ばかりが目立ちます。

山沢 ● 研究所では、植林や間伐の仕方で風害を抑える研究もしているのでしょうか?

宮下 ● 風害は、森の状態に、強風という条件が重なると起こります。強風がいつ、どこに襲つてくるかわからないので、強風が襲つてきたときにどれだけ風害が起きやすくなるか、という視点で研究しています。特に、間伐でどれくらい風害のリスクが高まるのか、立木を使つて、直接、風の影響を測つたりしています。現時点では、こう植えればよいとか、こう間伐すればよいとはつきり言うことは難しいのですが。

斎藤 ● 私たちが間伐をするときは傷になつたものから伐つてます。昔は悪いものから伐つて良いものを残すという考え方でした。ところが最近は2列ぐらいずつ列状に間伐したりする方法もありますね。でも、それって大丈夫なのかな? と私は思つたりします。間伐したところが風の通り道になつて、風害が起きやすくなるなんじやないかと思うんです。

宮下 ● たしかに風の通り道ができると、台風などの強い風が吹いたときに風害が起きやすくなる可能性は高いですね。間伐で2列そろえて伐つて大丈夫かという感覚はとても大事で、じつはあまり幅をあけてしまうと強風による倒木のリスクが高まります。

山沢 ● 風つて、あいているところに集まつてきますからね。



宮下 彩奈 (みやした あやな)

1983年大阪府生まれ。2006年大阪大学理学部化学科卒業。2012年東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻博士後期課程修了(理学博士)。東京大学博士研究員、栃木県林業センター臨時職員等を経て2018年10月よりテニュアトラック型任期付研究員として森林総合研究所 森林災害・被害研究拠点に採用、現在は同所属 主任研究員。森林生態学に興味をもちつつ、風や雪といった力学的な環境が樹木に与える影響や、風害発生メカニズム、間伐による風害リスクの変化に関する研究に従事。



山沢 敏江 (やまさわ としえ)

1948年新潟県佐渡島生まれ。1970年に新潟大学医学部付属看護学校を卒業。同大学病院に就職。1971年からは千葉県がんセンターに勤務。1974年に結婚し、勤め人の夫とともに休日ごとに山に入り、下刈、植林等、森を育てることを大事にしてきた。2007年定年退職を機に、もっと山のことを知りたいと思い、さんぶ木楽会に入会。畠仕事にも力を入れ、日々研究中。自家栽培の野菜を出荷する際に、木楽会の作品もあわせて道の駅などへ届けている。

巻頭◎座談

これぐらい伐ればこれぐらい危なくなるということを、言えるようになればいいなと。

宮下 ◎自分たちがこの20年の間に植えてきた森の木々が、どれくらい成長しているかを見つめたいと、このあいだの総会ではみんなお聞かせ下さい。

宮下 ◎さいごに、木楽会としての今後の目標

宮下 ◎木は大きくなるということを考えて植えないと本当に、あつという間に大きくなりますが、もっと小つちやいううちに伐つておけばよかつたなとか後悔することがあります。やはり倒木が怖いですね。

手島 ◎多分、樹種にもよるよね。

齊藤 ◎木は大きくなるということを考えて植えないと本当に、あつという間に大きくなりますが、少しわかつてきます。森の中に風が入らないようにするのがよいという考えがあつて、それで林縁にヒノキを植えたんです。ヒノキは風が強ければ曲がるんですね。スギみたいに真っ直ぐには育たない。風を防ぐ効果はあると思います。病氣にも強いし、硬さもあるから強いのかなって。

宮下 ◎シンプルに考えると、確かに材が硬いとか密度が大きいものがやはり強い。太さと長さのバランスとか樹形とかもあります。

齊藤 ◎二股になってないとか病氣にかかってないとか、いろんな要素があると思います。

宮下 ◎この辺りではヒノキのことを「イシビ」と呼んでいて、ヒノキと呼ぶ人はあまりいかないんじゃないかと思うんです。

宮下 ◎さいごに、木楽会としての今後の目標



風倒被害で伐採した跡地に、木楽会が請け負って広葉樹のコナラを植林した(右写真)。左の写真は、植林地の前で台風被害や活動について語る会長の齊藤さん(左)と前会長の手島さん。右端は宮下主任研究員。



空間をあまりあけないほうが「風の道」を防ぐということにつながるわけですね。

山沢 ◎なるほど。植林するにしても、間伐するにしても、そうしたことを頭に入れておくといいのかなとは思います。

山沢 ◎木の横に空間があると風が入るわけですが、およそどれくらいの空間をあけると風が、少しずつわかつてきます。木の高さと同じくらいの幅の空間が風上側にあいてしまうと、急激に影響が増していきます。

山沢 ◎空間をあまりあけないほうが「風の道」を防ぐということにつながるわけですね。たしかに伐つた後にとくに風害が多いなって感じる時つてありますね。

宮下 ◎そうしたことなどをどんどん数値化していつて、これぐらい伐ればこれぐらい危なくなるということを、言えるようになればいいなということで、いま研究を続けています。

宮下 ◎木の横に空間があると風が入るわけですが、およそどれくらいの空間をあけると風が、少しずつわかつてきます。木の高さと同じくらいの幅の空間が風上側にあいてしまって、木を伐ることで、ほかに被害を及ぼすかも知れないということを考えないといけない。いま、台風の被害が心配で、家のまわりの大きな木を伐る方が非常に多いんですよ。昔の人は家のまわりにいろんな木を植えてますから、風の向きによつてはもろに家の方に倒れてくる可能性も高いわけです。台風が来ると大丈夫かなと、風で木がきしむ音を聞くたびに心配になりますね。

山沢 ◎低木を植えても、20~30年経つうちにすぐ大きくなっちゃうからね。

齊藤 ◎山を造つて守つていくこともだけれど、木を伐ることで、ほかに被害を及ぼすかも知れないということを考えないといけない。いま、台風の被害が心配で、家のまわりの大きな木を伐る方が非常に多いんですよ。昔の人は家のまわりにいろんな木を植えてますから、風の向きによつてはもろに家の方に倒れてくる可能性も高いわけです。台風が来ると大丈夫かなと、風で木がきしむ音を聞くたびに心配になりますね。

山沢 ◎十数人寄るといろんなアイデアが出てきます。意見交換をしながら、木楽会のメンバーはみんなで木を楽しんでいます。

手島 ◎杉玉も作つたんですよ。

齊藤 ◎杉玉は、枝を挿すのも楽しいし、丸くするのも楽しい。スギの葉の色が緑から茶に変わつていくのですが、それがまたいい。

手島 ◎あとコケ玉もね。コケ集めに行つて。齊藤 ◎森の中にある木の実生を自分なりにバランスよく植えて、モミジも植えたりね!

齊藤 ◎思い返せば、それほど辛いことはなかったよね。楽しみながらやらせていただけ、あつという間の20年でした。

手島 ◎売れなくとも自分が楽しめるし。

山沢 ◎売ればもつといいしね!(笑)。

宮下 ◎アイデアもどんどん出てきて、すごく楽しそうですね。20年間楽しみながら林業の活動を続けるつて、すごいことです。

齊藤 ◎思つたよね。楽しみながらやらせていただけ、あつという間の20年でした。

Key Words

列状間伐、巻き枯らし

列状間伐は、木を列状にまとめて伐採し、光の入り方や作業効率を改善する間伐方法。林内作業道の整備や機械化と相性がよく、成長促進と森林管理の効率化を目的とする。

巻き枯らしは、幹の周囲の樹皮と形成層を剥ぎ取ることで、水分や養分の流れを止めて立ち枯れさせる方法。



台風15号による風倒被害を受けたご自身の平地林をながめる山沢さん

巻頭◎座談

ないというわけではなくて、伐る空間をなるべく小さくすることがだいじで、風の通り道になるようなあの方がよくないということなんです。列状に伐る場合は、山の斜面なら等

が、横に2列間伐するとしても風がこつちから来るとか、向こうから来るとかわからない場合はどう考えたらいいんでしょうか?

山沢 ◎この辺りの山は、平地林が多いのですが、横に伐るといいと思います。

山沢 ◎台風による被害ということを考えるなら、台風はたいてい南風で巻いてくるので、南に口を開けるような形で列状に伐つてしまふと、そこが風の通り道になってしまいます。

山沢 ◎なるほど。植林するにしても、間伐するにしても、そうしたことを頭に入れておくといいのかなとは思います。

山沢 ◎なるほど。木の横に空間があると風が入るわけですが、およそどれくらいの空間をあけると風が、少しずつわかつてきます。木の高さと同じくらいの幅の空間が風上側にあいてしまって、木を伐ることで、ほかに被害を及ぼすかも知れないということを考えないといけない。いま、台風の被害が心配で、家のまわりの大きな木を伐る方が非常に多いんですよ。昔の人は家のまわりにいろんな木を植えてますから、風の向きによつてはもろに家の方に倒れてくる可能性も高いわけです。台風が来ると大丈夫かなと、風で木がきしむ音を聞くたびに心配になりますね。

齊藤 ◎巻き枯らしは、枯れるまで時間がかかるけど、たぶん「風の道」はできないですね。

手島 ◎逆に風の被害が出やすくなるかな? どんなやり方がベストか、森林総研で調べてもらおう!(笑)

齊藤 ◎山を造つて守つていくこともだけれど、木を伐ることで、ほかに被害を及ぼすかも知れないということを考えないといけない。いま、台風の被害が心配で、家のまわりの大きな木を伐る方が非常に多いんですよ。昔の人は家のまわりにいろんな木を植えてますから、風の向きによつてはもろに家の方に倒れてくる可能性も高いわけです。台風が来ると大丈夫かなと、風で木がきしむ音を聞くたびに心配になりますね。

山沢 ◎低木を植えても、20~30年経つうちにすぐ大きくなっちゃうからね。

齊藤 ◎山を造つて守つてしていくこともだけれど、木を伐ることで、ほかに被害を及ぼすかも知れないということを考えないといけない。いま、台風の被害が心配で、家のまわりの大きな木を伐る方が非常に多いんですよ。昔の人は家のまわりにいろんな木を植えてますから、風の向きによつてはもろに家の方に倒れてくる可能性も高いわけです。台風が来ると大丈夫かなと、風で木がきしむ音を聞くたびに心配になりますね。

山沢 ◎十数人寄るといろんなアイデアが出てきます。意見交換をしながら、木楽会のメンバーはみんなで木を楽しんでいます。

手島 ◎杉玉も作つたんですよ。

齊藤 ◎杉玉は、枝を挿すのも楽しいし、丸くするのも楽しい。スギの葉の色が緑から茶に変わつていくのですが、それがまたいい。

手島 ◎あとコケ玉もね。コケ集めに行つて。齊藤 ◎森の中にある木の実生を自分なりにバランスよく植えて、モミジも植えたりね!

齊藤 ◎思い返せば、それほど辛いことはなかったよね。楽しみながらやらせていただけ、あつという間の20年でした。

手島 ◎売れなくとも自分が楽しめるし。

山沢 ◎売ればもつといいしね!(笑)。

宮下 ◎アイデアもどんどん出てきて、すごく楽ししそうですね。20年間楽しみながら林業の活動を続けるつて、すごいことです。

齊藤 ◎思つたよね。楽しみながらやらせていただけ、あつという間の20年でした。